

あさポケ次号は4月11日(日)の発行です。

聞こえない人の苦労実感

北文で『はじめての手話講座』



手話や指文字を学ぶ参加者

手話サークル『星の会』の指導による『はじめての手話講座』が、2月6、13、20日の3日間、北地区文化センターであり、幼稚園児から中学2年生、その保護者の23人が参加した。

「手話そのものだけでなく、耳の不自由な方の生活や様子が想像でき、よくわかりました」「ゲームなどを取り入れ、子供たちが楽しめる内容になっていて良かった」などは参加した保護者の感想。子供たちは「耳の聞こえない人と話せそうです」「(講座が)5回ならもっと色々な手話が覚えられるのに！」などと話し、もっと勉強してみたいと意欲的だった。

東林小PTAにベルマーク寄贈

朝日新聞、ASA、あさポケはベルマーク運動を応援しています。2月17日、東林小PTAベルマーク担当の越智さんがASAイワサキに来社され、岩崎本部長が読者からお預かりしたベルマークと使用済みインクカートリッジを寄贈しました。今回お渡ししたのはベルマーク29名分、インクカートリッジ8名分です。

なお、東林小では東林公民館にベルマーク回収箱と使用済みインクカートリッジ回収箱を置いています。また、北地区文化センターには相模野小のベルマーク回収箱がありますので、こちらへのご協力もお願いします。

ベルマークは1点1円。集めてできる地域貢献運動です。地元小学校や幼稚園などで教材や備品となり、子供たちのために役立っています。なお、キヤノン、エプソンのプリンター使用済みインクカートリッジは、1つベルマーク5点分なので、ベルマークと同じ扱いで回収しています。

越智さんの報告では、昨年11月のASA寄贈分は3909・6点あったそうで、学校全体で集まるベルマークの約4分の1はASAからの寄贈分だそうです。「地域のみなさんのご協力と朝日新聞さんにたいへん感謝しています」と話されていました。



来社された越智さん(写真左)と岩崎本部長



東林公民館に設置されている東林小のベルマーク回収箱

「聞こえない」に寄り添うための「親子講座」

第13回 子供の作品を大事にする

学期末になると小中学生は学校にためていたテストや工作物などの作品を家に持って帰ります。そのテストの取り扱いについては以前お話ししていますからここでは省きます。今回は子供の工作物や絵画などの作品の取り扱いについてお話ししたいと思います。

手前味噌になりますが、私の家では未だ子供たちの当時の作品を残しています。掃除したり引越したりするとそれらの作品ははつきり言って邪魔です。私などは自分が大事にしている本でさえ捨てることがあるのですから、ましてや子供のそんな小中高時代の作品なんか「もう捨てていいんじゃないの」と言ったり、家内は決まって「だめっ」と私を叱ります。なぜなら、子供たちが一生懸命描いた絵

一 椋木修三

や一生懸命作った作品です。そう粗末にできないというわけです。そう言われてしまうと無碍(むげ)に捨てるわけにはいきません。そもそも家では、子供が学校から作品を持って帰ると、しばらくはよく家の壁に貼っていたものです。たとえ学校で賞をもらって「よいよい」といって、期間限定の即席「家庭展示会」です。当時は単に子供に自信をつけさせることが目的でしたが、今思えば、子供の「自己重要感」を高める役目を果たしていたことになりました。

駅やレストランの場面を疑似体験。話せないこと、聞こえないことの苦労や大変さを実感したようだった。

ふれあい伝言板

女子美・大学院修了生作品展

開催中(3月20日(土)まで、10時～17時、女子美アートミュージアム(麻溝台)で。入場無料。大学院を修了する学生の作品約50点を展示。絵画、立体、映像、工芸など様々な分野のアートが楽しめる。問合せ(女子美アートミュージアム) ☎042(778)6801。

フアブリックペイント体験会

3月17日(木)、31日(木)、4月14日(木)、いずれも10時から2時間程度、東林間5-8-4「居酒屋わかば」で。フアブリックペイントは、布にステンシルでペイントするアートです。無地の服やバッグに素敵な柄を描きます。材料費2千円。黒いTシャツかトートバッグ持参。申込み・問合せ(居酒屋わかば) ☎042(765)0588(お電話は17時以降)。

役立つ「お葬式セミナー」

3月21日(日)13時30分～15時30分、ハーモニホール座間・大会議室で。NPO法人全国葬送支援協議会主催のお葬式に関する正しい情報や最新情報を提供するセミナー。

まず、自分のことを本当に愛してくれるのならば子供は自分の全部を認めてほしいと思っています。学校では賞を取れなかった作品ですら親が大事にしてくれるという姿を見せれば、必ずと子供の心は素直にまっすぐに成長していきます。他愛もないことのように思えるかもしれませんが、意外とこれは効果があります。なぜなら、逆のことを考えてみればよく分かります。例えば、自分が精魂こめて作った料理を「こんなのおいしくないっ！」と粗末に扱われたら気分を害しますよね。これと同じです。大人でさえそうなので、自分で作った作品を無碍に扱われると、子供なら一層傷つきます。

大風の題字 今年『祝政』

毎年5月4日、5日に新磯地区の相模川河川敷で行われる「相模の大風まつり」で揚げられる大風の題字が『祝政』に決まり1月29日、同まつり実行委員会の石川龍二委員長らが加山市長に報告し揮毫(※)を依頼した。



石川委員長と加山市長(写真右)

大風の題字は毎年11月から12月にかけて市民から募集し、今回は

「あなたのお葬式いくら?」。参加無料、定員60名。申込み・問合せ(同協議会) ☎0120(64)7764。

春休み子供映画会

3月28日(日)10時、北地区文化センターで。『ナイトミュージアム2』を上映。入場自由(幼児は保護者同伴)。希望者は当日直接会場へ。問合せ(北地区文化センター) ☎042(747)3361。

北文キッズよさこい参加者募集

4月4日の相模が丘さくら祭りです。よさこい鳴子踊りを踊る子供を募集。対象は座間市在住の小学生以上で、5回以上練習に参加できる方。練習は3月13日(全7回)、北文で実施。参加無料。申込み(北地区文化センター) ☎042(747)3361。

教育実践研究論文 入賞者決まる

相模原市立総合学習センターが募集した平成21年度『教育実践研究論文』の表彰式が3月3日、同センター大会議室で開かれた。

この論文は保育・幼稚園、小・中・高校、各種団体・個人など、子供の教育に関わる人が対象で、健全育成に関するそれぞれの立場での実践や研究をまとめたもの。同センターでは優秀な論文を表彰し、創意あふれる優れた活動を広く紹介することにより、同市教育の更なる充実と発展に役立てたいという。

受賞者は次の通り。(敬称略)

【教育長賞】村田美樹(鹿島台小教諭)ほか『夢を育む「キャリア教育」〜社会を支える日のために〜』

【優秀賞】(学校教育・幼児教

応募総数139点(題字総数104点)の応募の中から同実行委員会の審査により、大久保英子さん(横山在住)他4名の作品『祝政』が選ばれた。この題字には今年4月の政令指定都市移行を祝し、将来の発展に期待を込めてとの思いが託されているという。『祝政』の文字は、加山市長が揮毫したものを見本に、大風に赤と青色を使って描かれる。また佳作には、「躍風」「相模」が選ばれた。

さらに今年は4月24日、25日に相模川河川敷や新戸スポーツ広場などで政令指定都市移行を祝って行なわれる『風と大地の饗宴』でも、大風が空を舞う。両日は子ども風揚げ大会や日本各地の風の保存会が参加する交流風揚げ大会などが行なわれる。

※揮毫(きごう) 〓字や書画を書くこと。

成人学級 準備委員募集

東林公民館では、10月に開講予定の成人学級の準備委員を募集中です。自分たちで事業内容を企画し運営します。委員会は4月から1月1〜2回程度開催。公民館区内在住の成人で、地域のために何かお手伝いしたいという方、ぜひご参加ください。申込み(東林公民館) ☎042(744)0087。

高齢者学級 準備委員募集

東林公民館では、今秋開講する高齢者学級の準備委員を募集中です。公民館区内の60歳以上の方で、文学、歴史、社会経済、健康など大人の学びを企画、指導して下さる方の参加をお待ちしています。申込み(東林公民館) ☎042(744)0087。

育の部)▼傳田由美子(谷口台小教頭)『児童の生活に根ざした道徳指導のあり方』身近なできごとを教材にして〜▼高野良彦(青野原中学校)ほか『学校間評価を取り入れた学校評価の改善』魅力ある学校づくりに向けて〜

〔社会教育の部〕渡辺建(相模原に冒険遊び場を作る会)ほか

『初級プレリーダー養成講座2008』プレリーダーの育成と冒険遊び場の可能性』

【奨励賞】▼古川節子(淵野辺小栄養教諭)『学校給食を活かした食事の実践』▼大野隆(東林小教諭)『子ども一人ひとりに適した特別支援教育の進め方』▼加瀬加寿恵(向陽小教諭)『自作教材を活かした楽しい社会科学習』▼永井千都子(串川中事務主査)『教職員の相互理解とやる気を高める文書管理の運用』

【優秀賞】(学校教育・幼児教